



タンポポだより

2015
冬号
vol.15

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

冬の花

冬の花は

みなつつましい

茶の花

さざんかの花

びわの花

それにもうすぐに咲く

紅梅の花

白梅の花

冬生まれのわたしに

どう生きるかを

教えてくれる

冬の花



タンポポ堂の山茶花(サザンカ)

館長エッセイ

【第十五回】「坂村真民」という生き方
ユニークなスタイルを貫いた
人生と生活

真民詩とわたし

真民先生は、神様がこの世に
遣わされた方ではないでしょうか
稲荷 愛子さん

真民詩を読み解く ⑭

宝蔵寺の立像に対面した感動を詠む
「一遍智真」

企画展のお知らせ

坂村真民記念館開館4周年記念特別展
「森信三と坂村真民の世界」展のお知らせ

【第十五回】「坂村真民」という生き方

ユニークなスタイルを貫いた
人生と生活

1. 独特な生活スタイル

坂村真民の「誰にも真似の出来ない独特な生活のスタイル」がある程度固まつてくるのは、砥部に住み、新田高校を退職した昭和49年4月以降のことです。教員と詩人という「二足の草鞋」を脱ぎ、すべての時間を詩人としての活動に費やすことが出来るようになった65歳の時からです。

もちろん、これまでも、朝早く起きることや毎朝座禅を組むといった生活スタイルはありましたが、毎日午前零時に起きて、昼食を食べず一日二食で、夕方4時には寝るという生活のリズムは、65歳以降に固まったものです。こうした生活の仕方は、父が8歳で亡くなり、毎朝午前4時頃には父の仏前に村の共同井戸から一番に水を汲んでくる習慣や、吉田時代の大乗寺での参禅の体験が影響しています。

2. 真民流の生き方

こうした「独特の生活スタイル」を支えていた「真民流の生き方」の根幹にあるその考え方は、若い時からのいろいろな出来事や人の影響を受けて形成されたものですが、その中で大きな影響を受けた人は、二人の母（生みの母と杉村春苔尼先生）と一遍上人であることは間違いありません。

生みの母タネは、8歳の時に父を亡くした真民にとつて、人間として生きていくうえで、いつも自分を見守っていてくれる「母」であり、生涯を通して「誰にも代えがたい大いなる存在」でした。この母に対する真民の想いを綴った詩に「母上よ」（「自選坂村真民詩集」所収）があります。母が亡くなる前の年の12月31日に書かれたこの詩ほど、母を想う切々たる真民の気持ちが表示された詩はありません。

第二の母と言える杉村春苔尼先生は、この大きな存在であった母タネが亡くなったまさにその時に出会い、その「大きな悲しみ」を救ってくれ、喪失感を埋めてくれた唯一の人です。春苔尼先生は、真民の心の母であり、仏の道の師でもありました。真民が唯一「心の悩み」を打ち明け相談できる人でした。吉田、宇和島時代の真民が「人間として如何に生きるか」を模索していた時に、最後の拠り所としたのが春苔尼先生でした。

そして、宇和島時代から晩年にかけての真民の「精神的支柱」は一遍上人です。

一遍上人は、精神的にも実践的にも、真民の生き方に最も大きな影響を与えた人です。

「身軽になる」、「捨てる」という真民流の生き方の根幹にある考え方は、どれも一遍上人の生き方からきています。97歳で亡くなるまで、毎日自分自身に「しっかりしろ、しんみん」と自分を戒める生き方を続けた真民にとつて、常に目指すところにいる人は一遍上人でした。

3. 坂村真民という生き方

坂村真民の生き方は、決して誰も

が真似の出来る生き方ではありません。しかし誰もがどこかで「その生き方」に共鳴し、少しでもそこに近づいていきたいと思う生き方ではないでしょうか。最晩年の「独りの孤独な人間に戻るといって考え方も、「坂村真民流の生き方」を突き詰めていけば辿り着く「最後の生き方」であると言えます。「六魚庵箴言」で40歳の真民が書いた「生き方」を見事に最後まで貫いた人生であつたと思います。

現在記念館で開催中の企画展「坂村真民と一遍上人」は、こうした「坂村真民の生き方とその詩」を理解するために、欠くことのできない内容となつております。どうぞ多くの皆様のご来館をお待ちしております。



真民先生は、神様がこの世に遣わされた方ではないでしょうか

稲荷 愛子 さん(71歳)



真民さんを囲む「朴庵例会」は、愛媛県砥部町で平成2年から16年まで毎月開催された。171回におよんだ集いを、裏方で支えたのが稲荷愛子さんだ。会を重ねるにつれ、語られる言葉や真民詩は「天の啓示」と思えるようになり、尊敬の気持ちは畏怖の念へと変化したという。



▲300番碑
稲荷邸の300番碑は平成7年に建立。苦勞の多かったお母様を偲び、「念ずれば花ひらく」全文が刻まれた

◆「愛の鈴を鳴らしてゆこう」

真民先生に初めてお会いしたのは昭和59年でした。親戚で近所に住む稲荷喜久夫・麻子さん夫妻が、当時、砥部の理正院で開かれていた「つゆくさの会」に誘ってくださったんです。

そのときいただいた短冊に書かれていたのが「愛の鈴を鳴らしてゆこう」でした。私の名前の「愛」の字が入っていましたし、これからはそのような生き方をしたいと思い、大事にいただきました。帰りました。

2年後、喜久夫さんのお宅に61番碑が建立され、除幕式で私が司会を務めました。式の最後に私が「これはもうただの石ではありません。魂が入った石になりました」と挨拶をした

ところ、後で先生が「今日の司会は良かった」とおっしゃったそうです。嬉しかったですね。

◆17名で始まった朴庵例会

先生にとって川は特別な場所であり、石鎚の靈光をいただける重信川畔ということもあり、喜久夫さんと夫たち、所有地に詩碑の建立を願っておりました。ちょうど、その場所に、開花亭の建設の話が持ち込まれたのです。そのころになると先生のご自宅を訪ねる方が増えたため、先生の詩作の時間が限られることを案じた喜久夫さんは、どこかで定期的な会を開きたいと考えていましたので、その場となる、朴庵の建設を条件に、2人が土地を譲ることになりました。

朴庵を会場に、先生のお話を聞く例会を始めたのは平成2年1月でした。17名ほどで始まった会はすぐに50人、100人と増えて、会場に入りきれないほどになりました。

私は例会前日にお掃除をして花を活けるなど、皆さんの指示どおりに動いただけですから、苦勞した覚えはありません。

麻子さんの体調不良などもあり、例会は平成16年に171回で終了し



▲大好きな詩の書をお願いして屏風に。
(坂村真民記念館保管)

ました。足かけ15年、この間、先生は一度もお休みされませんでした。

◆「大宇宙大和楽」の神髄に触れて

「立派な方」という思いは最初からありましたが、先生に対する見方が変わったのは、平成9年ごろに般若心経の解説と先生の詩が掲載された経本(寺田清一著)を手にしてからです。

先生のご意見も参考にされたのではないかと思われる解説を読んで、宇宙の働きによってこの世の全てが生かされており、宇宙の念願は大和楽であるという先生の教えが腑に落ちました。

お釈迦さま、キリストなどのように、先生は神様が宇宙の理を伝えるために人類から選び出したおひとりであり、先生の詩は聖書と同じように、「天の啓示」ではないかと思うようになり、先生に對する畏怖の念はさらに強くなり、親しくお話しをしたい気持ちはずっとありましたが、最後まで無理でした。私にとって先生は、そういう存在だったんです。

※稲荷慈明さん

[お詫びして訂正いたします]

宝巖寺の立像に對面した感動を詠む

「一遍智真」



一遍智真

捨て果てて
捨て果てて
たなひたすらうらなひの 名もなき
火のようは吐いて
一処不住の
捨身一途の
彼の狂気が
ゆたしをひきつける

芭蕉の旅姿もよかつたにちかいかい
一遍の旅姿は念化のきびしさとともに
夜明けの雲のようによたしを魅了する
瘦手合掌
破心踏の彼の姿に
ゆたしは頭をさげ
ひれ伏す

六十万人決定往生の
発願に 燃えちから
踊り歩いた
あの綾々たる旅姿が
いまのゆたしをかりぬる

この詩は、真民が50歳の時、道後の宝巖寺を初めて訪ね、木像の一遍上人立像と對面した感動から作られた詩です。

真民は49歳頃から一遍上人に興味を持ち、関連する書物を読み漁り一遍上人の生き方に共感するようになりました。

そして、宝巖寺の一遍上人立像と對面し、破れ衣に裸足の像を見て全てを捨ててただ念仏を唱え「南無阿彌陀仏 決定往生六十万人」のお札を配って全国を歩いた姿に心から感動してこの詩は作られたのです。

残念ながら一昨年この宝巖寺の本堂が焼けてしまい、真民がその足に触れて魂の交流をした「一遍上人像」も焼き尽くされてしまいました。(現在、本堂の再建工事が進められ、来年の3月には完成する予定です。)

坂村真民の生き方を考えると、この一遍との出会いは真民の生涯を決定づける出来事であると言えます。「南無阿彌陀仏 決定往生六十万人」の賦算札を配って全国を遊行された一遍上人が、二十五万一千七百二十四人で亡くなられたのを引き継ぎ、真民は詩人と

して「詩国」を賦算誌として全国に賦算することを決意するのです。こうして昭和37年7月に「詩国創刊号」が発行され、その後約43年間休むことなく詩を書き「詩国」を出し続けた。

詩人としても、人間としても、真民の中に一遍上人の存在が大きなものになっていくのです。それは破れ衣に裸足の足で全国を遊行して歩きすべての人々を極楽浄土へ導くことに生涯をかけた「一遍上人の生き方」を自分の生き方として生きる覚悟が出来たことだとも言えます。

真民が一遍上人の生き方から学んだ一番大切なことは、「捨てることの大切さ」と「無差別、平等の精神」です。こうした生き方を実践するため、真民は自分自身に對する厳しい生き方を生涯貫きます。

午前0時(教員を退職するまでは午前3時)に起床し、坐禪・読経・詩作の生活は、真民にとつては常に一遍上人の生き方との「真劍勝負の生き方」であったと言えます。そして、そこから、また、研ぎ澄まされた精神によって「新たな真民詩」が生まれてきたのです。



坂村真民記念館開館4周年記念特別展

「森信三と坂村真民の世界」展のお知らせ

期間 平成28年 3月5日(土)～6月5日(日)

場所 坂村真民記念館

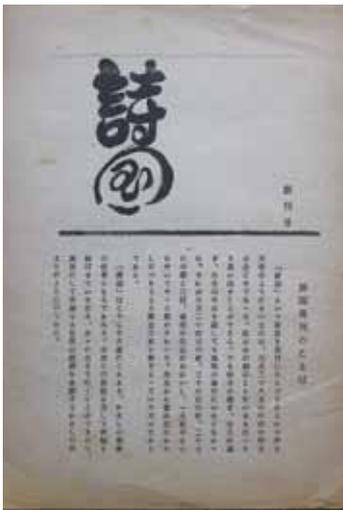
昭和34年6月18日に、坂村真民は森信三先生に初めてお会いする。その日以来、真民にとって森先生は厳父であり慈父となる。

「昭和42年『自選坂村真民詩集』の出版が決まると、自分の事のように喜び、全国の教え子、知人に手紙を書いて購入を呼び掛け、渾身の力を込めて「詩集の序文」も書いてくださいました。

詩集が届いた日には、「ホンツイタ コレデニホン

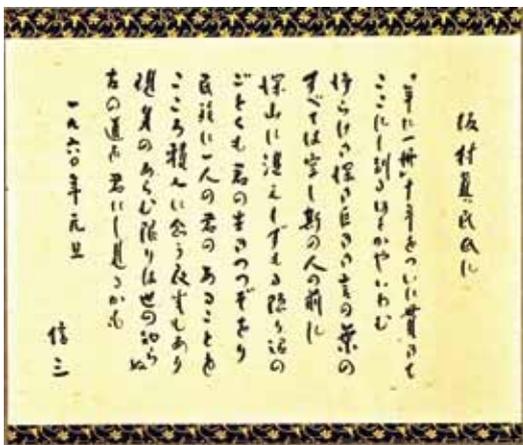
ガ スクワレル モリ」という電報をくださり、坂村真民が「自選坂村真民詩集」により全国的に知られるきっかけを作って下さった一番の貢献者であると言えます。

特別展では、36年間に及ぶ真民と森信三先生との交流の足跡を、様々な資料・作品によって解き明かし、ゆかりの品々を展示する予定です。

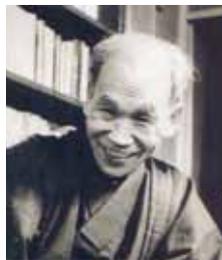


詩国創刊号の表紙です。
(昭和37年7月発行)

人生二度なし
 森信三先生にお会いして
 この言葉が
 気海丹田の中に焼きつき
 わたしは新しく
 スタートした
 そして賦算誌『詩国』を発行し
 平成十六年二月号で
 五百号になる
 この間一回も休むこともなく
 刊行できたのは
 先生の励ましのおかげである
 先生の霊よ
 永久なれ



真民が毎年1冊自費出版の詩集を出して10年が経ち、10冊目の詩集が発行されたことに対する森信三先生からの祝歌5首。



森 信三 (もり しんぞう)

明治29年愛知県生まれ。哲学者・教育者。31年森家に養子として入籍。愛知第一師範卒業後、広島高等師範に入学。ここで生涯の師と仰ぐ西晋一郎先生の教えを受ける。京都大学哲学科を卒業後、大学院に籍を置きつつ、大阪天王寺師範の講師となる。修身科を教えた時の講義筆記「修身教授録」が後に一大ベストセラーになる。昭和14年旧満州国建国大学に赴任。敗戦後、九死に一生を得て帰国。全国各地に講演行脚を始める。28年神戸大学教育学部教授に就任。51年には教育者の自己研修団体、社団法人「実践人の家」を設立。昭和56年、脳血栓に倒れながらも、『森信三全集続篇八巻』を出版。退院後、後進の指導にあたる日々を送る。平成4年96歳で逝去。月刊誌「実践人」は弟子たちにより現在も続いている。

写真/社団法人 実践人の家

「坂村真民の誕生日を祝う会」を下記の日程で開催しますので、是非ご参加ください。

日時 平成28年1月3日(日) 10:30～13:30

場所 坂村真民記念館会議室

内容 坂村真民が出演している貴重なビデオや録音テープ等を鑑賞したり、ゆかりの人達から思い出話を聴いたりします。昼食を食べながら、皆で思い出を語り合います。

参加を希望される方は、メール又は電話で記念館に申し込んでください。先着30名まで受け付けます。

坂村真民記念館 メール info@shinmin-museum.jp 電話 089-969-3643



FM愛媛 毎週土曜日 午前8時55分～9時00分 「しんみんさんの詩」放送中

FM愛媛では、毎週土曜の朝、真民さんの詩を一つずつ紹介する5分間番組を放送しています。

詩の朗読は清水小百合さん。解説は西澤孝一館長。「真民さんの詩の紹介とともに、その詩が生まれた時代背

景や、真民さんの心情を、西澤館長にわかりやすく解説してもらっていますので、短い時間ですが、心に残る番組になっています」というのは石田伸浩プロデューサー。およそ1年前から始まったミニ番組。耳を傾けてはいかががでしょうか。

※FM愛媛(松山79.7MHz 川之江80.0MHz 新居浜89.2MHz 今治80.6MHz 大洲78.8MHz 八幡浜77.6MHz 城川80.2MHz 宇和島82.1MHz)

「坂村真民と一遍上人展」好評開催中 ～平成28年 2月28日(日)

坂村真民記念館では、10月24日(土)より来年2月28日(日)までの会期で、新しい企画展「坂村真民と一遍上人」を開催いたしております。

今回の企画展では、坂村真民の人生とその詩に大きな影響を与えた「一遍上人」を採りあげています。坂村真民は、50歳の時宝厳寺の一遍上人立像と対面し、破れ衣に裸足の足で全国を遊行して回られた一遍上人の姿に魅了され、その志を受け継ぎ生涯の師として仰ぎつづけました。企画展では、真民の「一遍上人を詠った詩」と「一遍上人語録 捨て果てて」の中から、一遍上人の人間的魅力を語ったところを取り出し、「一遍上人の生き方とその思想」をわかりやすく解説パネルで展示しています。また、一遍上人の生涯を絵巻にした国宝「一遍上人絵伝」から

有名な場面の写真を、時宗総本山遊行寺と国立東京博物館の協力を得てパネル展示しています。

坂村真民の「独特な生き方」は、「一遍上人の生き方」を求め続けた「生き方」であったと言えます。なぜ坂村真民は一遍上人の生き方に魅かれそれを生涯求め続けたのか、そしてその結果真民詩にどのように影響を与えているのかについても体系的にわかりやすく展示しています。どうぞ、多くの方のご来館をお待ちしております。



坂村真民記念館を応援しています



経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と自分づくりをする

[パチンコ店経営]

株式会社 **宣翔物産**

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

[関連グループ会社]

株式会社 **クリオ**

ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111



本年7月、真民先生の盟友の一人、石川洋先生が他界された。

- ・ 歩いたあとに一輪の花を咲かせたい
- ・ よいことをして忘れること
- ・ 逃げたらあかん etc

『行願』というトイレ掃除を「一燈園」西田天香先生の元で修業された。
また、沖縄・韓国・カンボジアまで、多くの支援された托鉢者^{たくはつ}でした。
御多用の中、西澤真美子さんも葬儀参列たまわりました。 合掌

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫
TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム **To-be**

78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)



住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部

18居室/2LDK 40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院横) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!

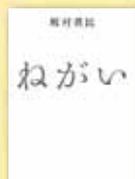


定価=本体3500円+税

筆の詩墨の花

サンマーク出版

坂村真民の本



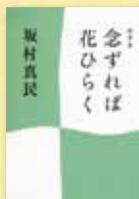
ねがい

東日本大震災復興
への祈りをこめた
特別版詩集。

定価=本体950円+税

- 随筆集 念ずれば花ひらく
- 随筆集 めぐりあいふしぎ
- 随筆集 愛の道しるべ

定価=本体各1800円+税



詩集 二度とない人生だから
詩集 宇宙のまなざし



刊行後16年で
10万部の
超ロングセラー!

定価=本体各1000円+税

詩集 念ずれば花ひらく

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11 <http://www.sunmark.co.jp>
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167

いま届けたい、生き方の道しるべ

総合メディカルビル
徳真会 QUARTZ TOWER
GRAND OPEN

東京都渋谷区渋谷、青山通り宮益坂上交差点に、質の高いおもてなしと信頼できる医療を施す総合メディカルビルがオープンしました。



■ 8F クオーツメディカルクリニック(保険・自費診療)

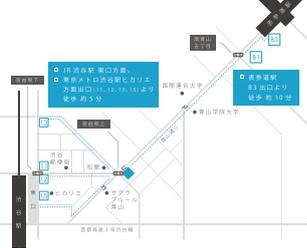
■ 7F クオーツデンタルクリニック(自費診療)

■ 6F クオーツキッズルーム

■ 5F 青山クオーツデンタルクリニック(保険・自費診療)

■ 4F 青山クオーツデンタルクリニック(保険・自費診療)

■ 3F クオーツホワイトデンタルクリニック(ホワイトニング) / クオーツビューティ(エステ・ネイル)



FLOOR GUIDE

- 9-12F クオーツギャラリー
貸しホール・貸し会議室
- 8F クオーツメディカルクリニック
- 7F クオーツデンタルクリニック
- 6F クオーツキッズルーム
- 4-5F 青山クオーツデンタルクリニック
- 3F クオーツホワイト/クオーツビューティ
ホワイトニング エステ・ネイル
- 1-2F ビーシーデポスマートライフ



〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-10-10
TEL: 03-6362-6688 (総合受付)

クオーツタワー

検索

www.quartztower.com

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典	会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典	会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典	会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典	会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください 坂村真民記念館 友の会

検索

〈編集後記〉「坂村真民と一遍上人展」は、真民詩を理解するうえで是非見てもらいたい企画展です。破れ衣に裸足で全国を遊行した一遍上人の人生を、自分の人生に重ねて生き抜いた坂村真民という人間が、どんな想いで97歳の生涯を生き抜いたのかを是非記念館で体感してください。今の時代を生き抜くために、一遍上人と坂村真民の生きざまを肌で感じてください。(西)

タンポポだより vol.15 冬号

平成27年12月1日発行 表紙写真：西澤孝一
発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)
休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日
入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり